

令和6年度に係る年度評価及び第5期中長期目標期間に係る見込評価書（素案）に対する意見等

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
第3．研究開発成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項	
1．環境研究に関する業務	
1.(1)重点的に取り組むべき課題への統合的な研究の推進 年度評価書(案) 掲載箇所：45ページ 見込評価書(案) 掲載箇所：52ページ	【年度】政策決定の基礎となる排出・汚染源や寄与度，環境・人への影響等及びその測定・分析・評価手法等について，計画に沿って重要かつ着実な進捗が認められ（BC，ミツバチの暴露頻度等），外部評価においても継続的に高い評価がなされている。統合研究は難易度が高いが，包括的な生態リスク指標値（R）の推定，MRのMPへの寄与等で顕著な成果が得られ始めており，プログラム全体として高く評価できる。1
	【年度・見込】今後の課題として，とりわけ難易度が高い社会そのもののあり方に関わるプログラムについては，当該成果の有する社会的意義や射程（限界）を明確化し，多様な社会科学的見地からの助言を活用することも必要であると考えられる。2
	【年度】いずれもクオリティの高い成果が創出されている。3
	【年度】スライド19に「地方自治体でのカーボンニュートラル支援」との記載があるが、内容と一致していない印象を受ける。研究成果と整合のとれた表現ではない、という趣旨の指摘であり、より適切な表現にする方が成果のイメージが伝わるのではないかと。4
	【年度】いずれの取り組みも順調に遂行し、高いレベルの成果を挙げている。特に長期大気観測と化学輸送モデルを用いた中国のBC排出量の推計や、マイクロマテリアル破碎工程が、今後、アジアの環境流出量の増加につながる監視すべき発生源であることを指摘した研究結果は、国際的にも重要な知見を提供する優れた研究内容で高く評価します。5
	【見込】環境問題は常に新たな課題が出てくる中で、災害環境研究プログラムのような内容を、継続して粘り強く取り組まれていることを高く評価します。6
	【年度】中国からのBC排出量の推計や、破碎工程におけるマイクロプラスチックの生成に関する研究は、環境研ならではの成果で高く評価できる。7
	【見込】計画に沿った学術的かつ有用な環境研究に加え、激甚化する災害や激動する国際情勢に合わせた柔軟性の高い研究を進めることが求められる。8
	【年度】重点的に取り組むべき8課題全てにおいて，優れた成果を多数あげている。また，外部評価委員会の総合評価でも，平均値で4.20の高いスコアを得ており，評価できる。評価Aを支持します。9
	【見込】第5期見込みにおいても，外部評価委員会の総合評価平均4.29が見込まれており，評価できる。評価Aを支持します。10

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
	【年度・見込】 会議で質問した事項に加え、包括環境リスク研究プログラムの年度計画が達成目標にどう結びつくのか、説明がわかりにくかった（水俣条約、ストックホルム条約にどう貢献するのか）。個人的にはA-評価（現状で満足してもらいたくないという意味で）。 11
1.(2)環境研究の各分野における科学的知見の創出等の推進	【年度】 先見的・先端的な基礎研究では喫緊の政策課題について各種の先端的知見が得られ（栄養塩類管理への気候変動影響等），政策対応研究においては各種の成果が政策に活用されている（OECDテストガイドラインへの採用，マンガースの根絶宣言等）。知的研究基盤の整備についても，継続的取組に加えて新たな手法の開発も，着実に進んでいる。金属資源の可視化ツール等については，他の国立研究機関（JOGMEC等）と異なる国環研の独自性がわかる説明があると，その意義がより明確になるのではないか。 12
年度評価書(案) 掲載箇所： 75ページ	【年度・見込】 有用かつ学術的にも優れた成果が得られていると評価する。 13
見込評価書(案) 掲載箇所： 94ページ	【年度】 スライド36における外部評価において、（イ）政策対応研究が（ア）、（ウ）と比較して、相対的に低くなっている点が気になる。 14
	【見込】 先端的基礎研究から環境政策、知的研究基盤整備までの取り組みが着実に進んでいる。特に研究所でしかできない長期継続的な基盤整備への貢献は大きい。 15
	【年度】 環境標準物質の開発や、PFASなど有害化学物質除去技術開発等の研究成果は高く評価できる。 16
	【見込】 有用かつ学術的意義のある成果や、長期にわたる取り組みならではの成果が多数出されていることが評価されている。一方で長期にわたる研究がマンネリ化しないように次期目標を見極めつつ進める必要がある。 17
	【年度・見込】 基礎研究から政策に対応する研究まで，幅広くかつ重要な研究が行われており，かつ有用な成果を多数あげており高く評価できる。評価Aを支持します。 18
	【年度・見込】 「環境研究の各分野における科学的知見の創出」という設定が、可能性を制限しているのではないかと感じた。たとえば災害については、近年の地球温暖化による豪雨災害の予測と緩和策は政策課題となり得、地球環境保全分野・地球システム分野、災害環境分野などが連携して取り組むことで有効な知見が創出される可能性がある。 19
1.(3)国の計画に基づき中長期目標期間を超えて実施する事業の着実な推進	【年度・見込】 衛星観測，エコチル調査ともに継続的かつ着実に実施されており，国際的にもインパクトのある知見が得られている。また，エコチル調査における40歳までの調査期間延長等，今後の展望についても適切に検討がなされている。 20
年度評価書(案) 掲載箇所： 88ページ	【年度・見込】 いずれの研究も着実に推進されていることが確認できる。 21
見込評価書(案) 掲載箇所： 107ページ	【見込】 エコチル調査の高い参加継続率は大変評価できるが、今後は、思春期を迎える子どもたちの追跡が主となり、アンケート回収率が下がることは大いに予想される。研究の質を維持するための対策を検討する必要がある。 22
	【年度】 GOSAT-GWの打ち上げ成功は特筆すべきであり、データ処理システムの開発がおおむね計画通りに進められたことは評価できる。 23

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
	【見込】GOSAT/GOSAT-2/GOSAT-GWについては、貴重なデータを広く活用してもらうために、今後も国際的プレゼンスを高める努力を続ける必要がある。エコチル調査に関する事業については、委員会から出されているように継続的研究体制、データ活用、国際連携の観点も加味しつつ進めることが期待される。24
	【年度・見込】衛星観測事業およびエコチル調査事業ともに、期待される業務を着実に実施している。また、それらの事業を通じて得られるデータの提供ならびにそれらを用いた有用な研究が多数行われており、高く評価できる。評価Aを支持します。25
	【年度・見込】エコチルの分析対象に当初PFASは無かったと記憶している。一方で金属元素だけではなかった記憶もある。立案時からR6年度までに、どのような経緯でPFAS・金属元素となったのか（あるいは資料iiに書き込めなかったのか）26
1.(4)国内外機関との連携及び政策 貢献を含む社会実装の推進	【年度】PFASに関する国内外の大学との共同研究等，中核機関として，適切なコーディネートがなされており，また，国際共著論文率が49.2%になるなど，共同研究の成果が数値にも表れている。27
年度評価書(案) 掲載箇所：118ページ	【年度】スライド53における「国環研ベンチャー第1号の認定」や「LCCN推進研究会の発足」など研究成果を社会に還元する取り組みは高く評価できる。一方、研究者がこうした研究所外に組織を立ち上げる際のルール（エフォート管理や制限等）は段階的に整理していくことが望ましい。28
見込評価書(案) 掲載箇所：139ページ	また、「ベンチャー」と「スタートアップ」という言葉は意図的に使い分けているという理解でよいのか？環境省も「環境スタートアップ」の取り組みを進めているため、用語は整理しておくことが望ましい。あるいは、国環研として独自の概念を提示されるのも一案である。29
	【年度・見込】非常に質の高い国内外の連携・共同研究活動および政策貢献が実施されている点が高く評価します。30
	【年度・見込】国環研ベンチャー第1号が出たことは高く評価される。国内外の政策貢献にも適切に寄与しており、今後も継続して貢献していくことが期待される。31
	【年度】環境研究の中核機関として，各種連携を主導する活動は引き続き活発に行われており評価できる。また，今年度は特に，国環研初のベンチャーが認定された（誕生した）ことを高く評価する。分析・計測技術を駆使した研究を遂行しながら，ユーザーならではのニーズに基づき必要な技術開発を自ら開発する（自力のほか，必要な外部企業・機関との協業により）ことは，この分野の発展に広く寄与することから，さらに活発化することを期待したい。この活動に重要な点は，分析・計測手法の改良という視点を持つことと，それを協力して実施できるパートナーを見つける活動を両輪で回すことである。評価Aを支持します。32
	【見込】中核機関としての役割を意識した活動を不断の努力で継続しており，高く評価する。評価Aを支持します。33
	【年度・見込】昨年度も指摘した記憶があるが、国立環境研究所がある茨城県には霞ヶ浦があるのに、自治体研究所との連携や水環境保全に関する研究がほとんど行われていないのは何故か？琵琶湖は構造湖であり、平野部の多くの湖沼と異なる点が多く、霞ヶ浦での研究を進める方が、同様の浅い富栄養湖沼を有する多くの自治体が望む研究と思われる。個人的にはA-もしくはB評価（まだ改善の余地があるという意味で）。

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
2.環境情報の収集、整理及び提供等に関する業務	【年度】 年度目標を大きく超えるメタデータが整備され、「50周年特設サイト」が設けられるなど、日常的に精力的な作業が行われているほか、ホームページのフルリニューアルを睨んだ中期的な対応も進んでいる。34
年度評価書(案) 掲載箇所： 136ページ	【年度・見込】 どのレベルの水準が望まれるのか判断が難しいところではあるが、着実に情報発信を行っている点は高く評価できる。35
見込評価書(案) 掲載箇所： 159ページ	【年度】 情報発信も積極的に行っており、海外からの評価も得られている点はすばらしいと思います。36
	【年度・見込】 「国立環境研究所50年のあゆみ」は手に取りやすくわかりやすくまとめられていてよい。情報源情報も着実に整備されている。37
	【年度・見込】 環境展望台を通じた様々な情報提供を活発に行っており高く評価できる。一方で、モニタリング指標は必ずしも右肩上がりということにはなっていない。思うに、限られた人員、各種リソースでこれら全ての指標を常に右肩上がりで維持することは不可能であると考えられるので、容易なことではないと思うが、量ではなく質を評価するような指標に変えていく必要もあるように考える。評価Aを支持します。38
	【年度・見込】 SNSを通じた広報、Xの投稿は増え、努力されていると思うが、専属スタッフがいるのか。たとえば産総研Xの帯には、「見えない未来を、見える未来へ。産総研が隣にいる。」という印象的なキャッチコピーがはめこまれており、研究者紹介画像もこなれていて、専属もしくは専属に近いスタッフが作業しているように見えるが、NIESのはそう見えない。去年はB評価にしたと思うが、現状ではB+程度と思う。39
3.気候変動適応に関する業務	【年度・見込】 A-PLAT(気候変動適応情報プラットフォーム) の適切な運営が行われている。都道府県・政令市の計画策定率が100%となるなか、今後、地域の実情を踏まえた、それ以外の自治体サポート強化が期待される。40
年度評価書(案) 掲載箇所： 163ページ	【年度・見込】 着実に取り組みが進捗している点を評価する。今後のさらなる展開が期待される。41
見込評価書(案) 掲載箇所： 184ページ	【年度・見込】 国内研究機関はもとより、民間事業者も巻き込んだシンポジウムの開催などは高く評価します。42
	【年度・見込】 気候変動適応推進のための技術的援助については、A-PLATのページビューが目標を大きく上回っているなど評価できる。また、過去データおよび将来気候予測データに基づくWBGTの予測など、リスク分析の研究も着実にされている。43
	【年度・見込】 中核機関としての役割をきちんと果たされていると評価できる。評価Aを支持します。44
	【年度・見込】 PJ3の「実践」については、具体的にどのような状態を実践と考えるかで評価軸が違ってくると思われる。45
第4．業務運営の効率化に関する事項	
1.業務改善の取組に関する事項	【年度】 節電アクションプランにより、電気料金が減少したことは、環境の取組としても注目される。46
年度評価書(案) 掲載箇所： 175ページ	【年度・見込】 適切な取り組みが推進されている。47
見込評価書(案) 掲載箇所： 194ページ	【年度・見込】 適切であり、特筆すべきことはない。48
	【年度・見込】 業務改善を年々確実に実施しており、評価できる。評価Bを支持します。49

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
	【年度・見込】業務にAIを取り入れる予定、準備はあるのか？ 50
2.業務の電子化に関する事項	【年度・見込】PMOによる着実な取組がなされている。 51
年度評価書(案) 掲載箇所：183ページ	【年度・見込】適切な取り組みが推進されている。 52
	【年度・見込】PMO中心に適切に取り組みがなされている。 53
見込評価書(案) 掲載箇所：201ページ	【年度】推進部署（PMO）を設置して取り組みを推進しており、評価できる。 54
	【年度・見込】業務改善を年々確実に実施しており、評価できる。評価Bを支持します。 55
	【年度・見込】業務にAIを取り入れる予定、準備はあるのか？ 56
第5．財務内容の改善に関する事項	
年度評価書(案) 掲載箇所：194ページ	【年度・見込】バランスのとれた収入の確保のため、外部資金についても、継続的な確保が図られている。 57
	【年度・見込】自己収入は前期中期目標期間の年平均額を大きく上回っており評価できる。 58
見込評価書(案) 掲載箇所：211ページ	【年度・見込】競争的外部資金が毎年増加するなど業務改善を年々確実に実施しており、評価できる。評価Bを支持します。 59
	【年度・見込】物価が急騰する中、運営費や人件費が増えていないので、活動は実質的には減少傾向と推定できる。物価に対応した収入増加の方策は検討されているのか？ 60
第6．その他の業務運営に関する重要事項	
1.内部統制の推進	【年度・見込】外部研究評価委員会に加え内部研究評価委員会を開催するなど、多層的にガバナンスの確保が図られている。 61
年度評価書(案) 掲載箇所：205ページ	【年度・見込】理事長をトップとする運営戦略会議や研究業務のPDCAサイクルとして外部・内部研究評価委員会も開催されており、適切であると考え。コンプライアンス研修の受講率100%は高く評価される。 62
見込評価書(案) 掲載箇所：221ページ	【年度・見込】業務改善を年々確実に実施しており、評価できる。評価Bを支持します。 63
	【年度・見込】内部統制について、自力でできることは全てやっていると考えているのであれば、A評価でよいのではないかと。まだ改善の余地があるなら、その項目も書いていただきたい。 64
2.人事の最適化	【年度・見込】クロスアポイントメント制度について、導入後の実績が出始めている。 65
年度評価書(案) 掲載箇所：218ページ	【年度・見込】おおむね適切である。より高いキャリアを目指す転職は日本社会においても広まってきた。若手や定年後の採用だけでなく、中堅研究者もターゲットに入れた幅広い年齢層の人事推進が、研究活性化に向けて有効かと考える。 66
見込評価書(案) 掲載箇所：233ページ	【年度・見込】業務改善を年々確実に実施しており、評価できる。評価Bを支持します。 67
	【年度・見込】男女共同参画の取り組みとして、女性だけでなく、男性の産休・育休取得率はどうか？ 68

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
3.情報セキュリティ対策等の推進	【年度】研修及び自己点検ともに100％を維持されているとともに、クラウドサービスセキュリティ診断等により、継続的な強化が図られている。69
年度評価書(案) 掲載箇所：228ページ	【年度・見込】情報セキュリティ研修の受講率100％というのも素晴らしい。EDRやIntuneなどセキュリティ対策そのものの強化も着実に行われている。70
見込評価書(案) 掲載箇所：241ページ	【年度・見込】業務改善を年々確実に実施しており、評価できる。また、研修受講率100％を維持している点も評価できる。評価Bを支持します。71
	【年度・見込】産総研ではイントラネットの管理は専門のSEが担当していたと記憶しているが、NIESでは専門職がセキュリティ対策に当たっているのか？72
4.施設・設備の整備及び管理運用	【年度・見込】防災用蓄電池設備更新整備等が計画的に実施され、またキャンパス計画にも着実な進捗が見られる。73
年度評価書(案) 掲載箇所：233ページ	【年度・見込】スペース課金制度によりスペースの有効利用が図られている。74
見込評価書(案) 掲載箇所：246ページ	【年度・見込】業務改善を年々確実に実施しており、評価できる。評価Bを支持します。75
	【年度・見込】文章を読む限り、長期計画に基づき個別対応を丁寧に行っているように見える。第4～第6まで一律B評価にしている理由が気になった。76
5.安全衛生管理の充実	【年度】ストレスチェックの受検率が高水準であることは評価できる。77
年度評価書(案) 掲載箇所：240ページ	【年度・見込】高ストレス者への対応もおおむね適切に行われている。78
見込評価書(案) 掲載箇所：252ページ	【年度・見込】業務改善を年々確実に実施しており、評価できる。評価Bを支持します。79
	【年度・見込】自己評価がAではないので、どこに改善の余地があるのか一言記してほしい。80
6.業務における環境配慮等	【年度】環境配慮憲章に基づきグリーン電力を調達し、取組状況を公表するなどの取組がなされていることは評価できる。81
年度評価書(案) 掲載箇所：250ページ	【年度・見込】R5に所内のアスベスト対策が完了したというのは遅すぎる印象(遅すぎても完了したのは評価できる)。82
見込評価書(案) 掲載箇所：261ページ	【年度・見込】業務改善を年々確実に実施しており、評価できる。また環境研究の中核拠点として、環境に配慮した業務実施を常に心がけており高く評価する。評価Bを支持します。83
	【年度・見込】自己評価がAではないので、どこに改善の余地があるのか一言記してほしい。84